

1 舞の後半から面を外して太刀舞に変わる「魔王」／
築館大乗神楽 2 途中から黒面の道化が登場する「帝
童(ていどう)」の追っかけ／村崎野大乗神楽 3 今年
の新春大乗神楽公演の最後を飾った「伏獅子」／和賀
大乗神楽 4 先月の第12回きたかみ地域教育力向上
フォーラムで更木小6年の藤村和央(わお)君は「三
番叟(さんばそう)」を披露／更木神楽 5 成田神楽は
舞を伝授されてから今年で200周年(写真は大和と弓を
持って舞う「八幡舞」) 6 太神楽の獅子頭は神楽のもの
とは形相が異なる／伊勢流鳥喰(とりばみ)太神楽



4



5



6

鬼の館では毎年、6月に
大乗神楽大会を開催してい
る。今年は開館30周年を
記念して、特別に「大乗の
会」を開催する。(鬼の館
0197-7318488)

幕神楽を行う和賀(和賀
町煤孫、村崎野、宿、上宿
和賀(二子町)の各神楽団
体と、花巻市の笹間大乗神
楽は、平成13年に「和賀の
大乗神楽」として県指定無
形民俗文化財となった。現
在は築館大乗神楽も幕神楽
を習得し、市内では5団体
が幕を張ることができる。
北上市大乗神楽保存会連
絡協議会(中野耕会長)も
結成されている。前会長
の鈴木俊逸さん(和賀大乗
神楽保存会長)は「チーム
ワークで保存活動に努めて
いる」と語る。

●早池峰神楽
花巻市大迫町の大償神
楽と岳神楽(共にユネスコ
無形文化遺産)の総称。市
内では東部を中心に岳系が
多くあるが、幕を張れるの
は3団体のみ。その一つ、
更木神楽(伊藤豪保存会
長)は地元の園児や小学生
に指導し、神楽に親しむ機
会の一翼を担っている。

●南部神楽

市内には伝承団体が少な
く、3団体が残るのみ。娛
楽要素が強く、舞い手がセ
リフを語る演出があるが、
現在は演じられていない。

◆伊勢信仰の大(大)神楽

獅子頭は大きめで温和な
表情。獅子舞の後に曲芸
(めでた舞や大黒舞など)
が演じられる。軽やかな小
太鼓の音が小気味よい。

【参考文献】北上市民俗芸能総覧(市教育委員会)、北上市・花巻地方の大乗神楽調査
報告書本編(北上市文化財活性化実行委員会)、いわての郷土芸能(岩手日報社)

きたかみ



3



1



2

ようこそ 神楽の世界へ

北上市は民俗芸能の宝庫といわれ、「風流踊」はユネスコ無形文化遺産に登録された。
神楽は市内では団体数が最も多く、「芸能の宝庫」を支える存在だ。神事だけでなく娯
楽性にも富み、おはやしは高揚感を誘う。継承難で活動が困難になっている今、実際
に見て神楽衆の技に注目しよう。私たちの応援が彼らの活動の力になると願いたい。

●大乗神楽
修験の所作が残り、「法
印」という資格を得た人が
中心の役割を担う。伊達
の法印神楽の要素と南部の
権現舞を持ち、互いの特色
が融合して発展した神楽だ。

一方、幕神楽(幕を張り
面を付けて舞う)ができる
団体は少ない。かつては民
家の座敷でも舞われたが、
演目時間が長く舞台設営も
必要のため、現在は観覧す
る機会も限られている。
市内には、山伏修験を源
流とする神楽が、藩境のま
ちらしい形で伝承されてい
る。南部領の早池峰系、旧
和賀郡を本拠とする大乗
系、伊達領の南部神楽の3
系統が共存しているのだ。
なお、「神楽」という名称
は付いているが、目的が異
なるため別種類とされる太
(大)神楽も伝わっている。

神楽は地域や集落に根
差して受け継がれてきた。
家々を回る門付け、神社へ
の奉納・年祝いや敬老会で
無病息災を祈る。その大
半が権現(獅子頭)神の化
身による祈禱舞だ。
一方、幕神楽(幕を張り
面を付けて舞う)ができる
団体は少ない。かつては民
家の座敷でも舞われたが、
演目時間が長く舞台設営も
必要のため、現在は観覧す
る機会も限られている。
市内には、山伏修験を源
流とする神楽が、藩境のま
ちらしい形で伝承されてい
る。南部領の早池峰系、旧
和賀郡を本拠とする大乗
系、伊達領の南部神楽の3
系統が共存しているのだ。
なお、「神楽」という名称
は付いているが、目的が異
なるため別種類とされる太
(大)神楽も伝わっている。



和賀大乘神楽保存会(和賀町篠孫)

◎主な活動

古館神社神事舞初め(元日)、新春大乘神楽公演(1月)、慶昌寺公演(3月)、鬼の館大乘神楽大会(6月)、北上・みちのく芸能まつり(8月)、古館神社秋季例大祭(9月)、みちのく民俗村古民家公演(10月)

◎連絡先

会長 鈴木 俊逸 ☎090-4316-1051

フェイスブックなどで情報発信しています。



伝承の道を自ら切り開く 最年少の法印

和賀大乘神楽

鈴木 智大 さん(24歳)
SUZUKI TOMOHIRO



◀今年の慶昌寺公演は3月24日(日)13時から。早池峰山の幸田神楽(花巻市)と共演する▼昨年10月に初開催した、みちのく民俗村での古民家公演は、かつての家々の巡業の雰囲気もあった



神楽が身近な環境で育ったので、自然と始めていました。初舞台は小学1年生の時でした。地元のお寺・慶昌寺での公演です。法印は大学3年の時に伝授されました。和賀大乘神楽は、数年前までは煤孫の人じやなきや教えてもらえなかったんです。でも今は自分の地域から飛び出して、やりたい民俗芸能をやる時代。僕は鬼剣舞も始めましたから。大事なものはしっかりと、大事なのはしっかりと、長である僕の父も、そのことを理解してくれています。

昔の神楽は祈祷の意味が強かった。それが時代の移り変わりによって、祈祷よりも娯楽的な意味が強くなっています。周りからは舞台芸術として、また保護すべき文化財として見られている。僕たち神楽衆も、文化財保護というくくりで活動している部分があります。神楽を伝えて残していくことは大事だけれど、伝えても活動が減ってしまうは廃絶してしまふ。そうならないよう、発展させることが大事だと僕は思っています。昨年初

めて開催した、みちのく民俗村での古民家公演は、定期的な発表の場を設けようと考えた企画。次の世代に伝えるだけでなく、自発的に神楽を保存できるような環境づくりも、法印に課せられた使命だと感じています。舞台上には必ず面と向き合い、集中力を高めます。舞台上では言葉では表せない感覚にとらわれて、記憶が抜けてしまふ瞬間もある。皆さんには楽しんでもらって、その場の空間を一緒に作りた

私の祖父が村崎野大乘神楽保存会の前代表で、一度下火になった活動を再興させました。私は小学校入学前から祖父に教わり、20歳の時に法印(2ページ参照)を伝授されました。神楽の面は目の穴が小さいので、付けると周りはほとんど見えなくなる。青空だけが見えると、まるで空で舞っている気分になりますよ。周りが見えない分、感覚が研ぎ澄まされるんですよ。舞う際に心がけていることは、所作にとらわれ過ぎないようにすること。手や足の動きを意識しつつ、自分を俯瞰して見るようにしています。舞の出来がどうかだけでなく、奉納するものだから、その心を持って舞うことが何より大事だと思っています。だから人に伝えていくのは難しい。舞の手順は教えられなければならない。相手はどう感じ取るかなので、こちらの考えを押し付けるわけにもいかない。難しくても大事なお仕事。子どもたちにはまず純粋に楽しんで踊ってもらいたいんです。妻(美沙さん・40代、秋田県出身)は初めて大乘神楽を見た時、踏み足の力強さや所

作の優雅さに目を奪われたそうです。激動の時代の波に飲み込まれなかった、貴重な神楽だと。実は彼女との出会いは大乘神楽が縁。とても素敵な出会いでした。昨年から大乘神楽保存会連絡協議会の会長を務めています。私自身、他の芸能の刺激に影響されそうになることがあるけれど、我慢強く大乘神楽の良さを守りぬきたい。協議会としてもその良さを皆さんに伝え、ファンになってくれるとうれしいです。

大乘神楽の優雅さと心を 大切に守り伝えたい

村崎野大乘神楽

代表 中野 耕 さん(44歳)
NAKANO KO



◀普段は舞い手だが、今年の新春大乘神楽公演ではおはやしを担当。主催者代表としての役割も担った▼北上・みちのく芸能まつりの権現舞大群舞には子どものメンバーも参加。手を合わせて感謝の意を示す習慣は、子どもの健全な育成につながる



村崎野大乘神楽保存会(村崎野)

◎主な活動

伊勢神社元旦祭、新春大乘神楽公演(1月)、火防祭(3月)、伊勢神社春祭り(4月)、鬼の館大乘神楽大会(6月)、北上・みちのく芸能まつり(8月)、伊勢神社例大祭(9月)

◎連絡先

会長 中野 耕 ☎080-6017-8094



▲あでやかな衣装で舞う(左から)門屋さん、ミツ子さん、静子さん。出演先での「感動したよ」「良かったよ」の声に励まされている

岩崎よそじま神楽(和賀町岩崎)

◎主な活動 依頼に応じて出演
◎連絡先 代表 及川 研 ☎080-6005-6661

継承難を憂えず 楽しく踊り続けたい

岩崎よそじま神楽

及川ミツ子 OIKAWA MITSUKO さん(74歳)
及川 静子 OIKAWA SHIZUKO さん(73歳)
門屋 俊子 KADOYA TOSHIKO さん(77歳)

よそじま(Ⅱ外島)というのは、庭元(代表)である及川家の屋号です。伝承当時は男性が踊っていて、南部神楽らしいセリフの入った演目もありました。戦時中に一時中断したけれども、昭和50年代半ばに再開して、保存会が結成されました。その時は子どもが中心となっていて、母親たちも参加するようになったんです。女性が伝承を担ってきたのは珍しいでしょうね。

私たち3人もママさんとして30代で始めました。仕事や子育てなどで離れてしまったけれど、自分たちの古希のお祝いでも師匠の石嶋岡神楽の舞初めに昆野会長(左)と出演。年の差40歳とは思えぬ会長の機敏な動きと、それに劣らぬ後藤藤さんの演舞がびりりと決まると、会場から「よし!」という歓声や拍手が沸いた

祝いで徐々に披露しようということになってね。20年ものブランクがありましたよ。それから、ふれあいデサイビスや地域のイベント、老人福祉施設から依頼を受けて御神楽を披露しています。今は私たち3人の踊り手と笛が1人(及川研代表)。メンバーは減ったけれど、継承は強制するものでもないし、大乗神楽や早池峰神楽とは比べ物になりませんからね。でも自分たちが好きでやっていることだから悔いはない。先達の思いに胸に、体力が続く限り踊ろうと思っています。

地域の人とのつながりに 導かれて挑戦

伊勢流黒岩太神楽

小田島 和彦 さん(31歳)
KODASHIMA KAZUHIKO



民俗芸能は好きな方で、見るより出たい、踊りたい。黒岩鬼剣舞(当時は三館鬼剣舞)には小学6年生から通っていて、今も続けています。

黒岩太神楽は昨年からは始めました。以前から保存会の昆美知男会長に「若い人に加わってほしい」と言われていたんです。美知男さんをはじめメンバーの皆さんは、子どもの頃から知っている「地

域のお父さん」的な存在だから、一緒にやろうと思いましたが、同級生も誘いました。黒岩地区の小学5・6年生は、めでた舞(黒岩太神楽の副舞で、獅子舞の後に行う)を習うので、僕も経験しました。でも獅子舞は初めての鬼剣舞が体に染み付いているから、耳は慣れないし間が全然違うし、流れになじめないですよ。練習するしかないでしょう。目標ですか? やつぱり美知男さんのような、熟練の雰囲気を出すことですね。

伊勢流黒岩太神楽保存会(黒岩)

◎主な活動
めでた舞冬稽古(1月)、北上・みちのく芸能まつり(8月)、年祝い、敬老会、地域の祭り
◎連絡先
会長 昆 美知男
☎090-9534-7406



▶ 北上・みちのく芸能まつりでは神楽(幕神楽)公演のほか、お祭り広場での権現舞大群舞にも出演



◀今年も師匠の石嶋岡神楽の舞初めに昆野会長(左)と出演。年の差40歳とは思えぬ会長の機敏な動きと、それに劣らぬ後藤藤さんの演舞がびりりと決まると、会場から「よし!」という歓声や拍手が沸いた

ひたむきな神楽愛で しきたりの壁を超えた

早池峰岳流綾内神楽

後藤 詩織 さん(29歳)
GOTO SHIORI

小学3年生から綾内神楽(昆野宏生保存会長)に通いました。神楽をやりたいと思ったきっかけは覚えていないんです。昔、父親が神楽の舎文(セリフ)を練習するそばで、飽きもせず見ていたと母から聞いています。やりたいたからといってすぐ参加できたわけではないんです。おおもとの岳神楽は女人禁制をかたくなに守ってきたので、その系統である綾内神楽でも最初は受け入れてもらえなかった。ただ、男性の新規加入が減って、反対にも

すこやかなる気のある女の子がいるという状況で、会長はかなり悩みながら私を参加させたと思う。感謝しています。綾内神楽は石嶋岡神楽(花巻市東和町・菊池康一保存会長)の弟子団体で、今でも交流が続いています。私は中学生の頃から練習に参加させてもらい、出演の機会もいたっています。お互いの公演でメンバーが揃わないときは、助け合って活動を維持しているんです。

神楽をやっていることを周知から珍しがられます。鬼剣舞の方が目にする機会が多いですからね。もちろん、うらやましさはある。躍動的で楽しいし。でも、神楽も何を表現しているか分れば楽しんでもらえると思うんです。地域の応援や家族の協力があつてこそ神楽。声援をもらうと私たちも気合が入ります。舞が満足できないときは、もつと上手になりたいと思う。右に出る者がいない、と言われる舞い手を目指します。そして、これからは神楽をやりたい人が活躍できる環境に恵まれることを願っています。



早池峰岳流綾内神楽保存会(口内町綾内地区)

◎主な活動
口内地区火防祭(1月)、北上・みちのく芸能まつり、浮牛城まつり(8月)、石嶋岡神楽との活動(舞初めなど年20回程度)
◎連絡先
会長 昆野 宏生 ☎080-5567-7659
石嶋岡神楽のInstagramができました。ホームページも近日公開。

